
SILVER BULLET～とある少年の異世界記～

神風 晴輝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SILVER BULLETとある少年の異世界記

【Nコード】

N4300U

【作者名】

神風 晴輝

【あらすじ】

神風家の少年が、異世界を救うお話です。色々と巻き込んでね…

はじめに

この物語は…神風家の少年が異世界を救うお話です。

主人公は：チートです。色々やらかす物語なので、暖かく見守ってくださいm（　　）m

色々な漫画から、技とか引き抜いていますので、ご了承くださいm

$$\begin{array}{c} \cap \\ | \\ \cup \\ \mathfrak{m} \end{array}$$

※チート、ハーレム：eとcが嫌いな方は見ないでくださいm（

$$\begin{array}{c} \text{L} \\ \text{m} \end{array}$$

宜しく願います（
、
▽
、
）
ノ

また、別な物語も書きますので、みたい方は、見てやってください。

主人公挨拶

「やっと、待ちに待った時が来ました……作者はあまりにも、文才がないので、大目に見てやってください。誤字がありましたら、連絡ください。では、宜しくお願いします。」

はじめに（後書き）

駄文ですが…書きました。
不定期に更新しますので、宜しく願います。

第1話 俺と始まりと幼馴染

l P i P i P i P i P i P i l

ガチャ

「ふわぁ〜よく寝た。」

皆さん、おはよう。おれの名前は、神風ルイだ。よろしく。

誰に説明してるかって…そりゃあ、禁則事項に関わるから教えられん。

そんな訳で、俺の学校生活が始まろうとしている。

「さてと、変装しなくちゃな。」

変装する理由は、そうだな…あまり目立ちたくないからだな。とりあえず、目に髪がかかるようなカツラを被って、つぎに伊達眼鏡を付けて、身体に防弾チョッキ（防刃、防衝撃付き）を着て、上に制服を着る。何故着るって…そりゃあ、何かあるかじゃねえか高校は、カツアゲとか事故とか…etc etc。

後、腕と脚に50kgの重りを付けて完成と…。重りを付けるのは、鍛えているからさ、後は足首に銃を付けて、背に木刀を仕込んで、完成。

「これで、十分だろ。」

「何が？」

「え？」

声した方を振り返ると、幼馴染がいた。

「????えっと、どちら様？」

「ひどいなくルー君、私のこと覚えてないの？ほら、一緒にお風呂入ったじゃないか。」

「子どもの頃の話だろ、帰ってくれ。ある意味不法侵入だぞ。」

「だって、玄関開いてたもん。」

「????たく、こいつは鍵開いてるからって、入ってくんじゃねえよ。」

あ…自己紹介忘れてたな。こいつは俺の幼馴染で隣のいえに住んでる月詠（つくよみ）ルナだ。容姿で言うところは大和撫子だ。ま、ある意味完璧人間だ。こいつの父は聖（セイント）カンパニーの社長さんで、かなりの有名な人だ。こいつの母は有名なファッションデザイナーで、ま…物凄い人物だ。俺には、幼馴染がもう1人いるが、ま、後で説明しよう。

「早く行かないと遅刻するよ…もう高校三年だから、しっかりしなさい。」

「お前に言われたくないよ。行く時は、離れろよ。わかったか？」

「イヤだ、今日で最後になるかもしれない登校だろ、一緒に腕組んで行くぞ…」

「最後じゃねえし、てか、何故腕組まないといけないんだ。今日、チャリ通だぞ。」

「む、じゃあ私を後ろに載せろ。――（何故こいつは気づかないんだろう…）。」

「わかったよ。ちょうど鍛えたかったし。あ、忘れ物したとりに行くわ。」

「いつもの何を書いていない本か？何で？持っていく？」

「いや、持っていかねえと、何となく駄目なんだ。」

「ふうん、じゃあ行こうか。」

「ああ、わかった。んじゃ、行って来ます。」

俺は鍵閉めて、学校に向かった。

第1話 俺と始まりと幼馴染（後書き）

駄文ですが：誤字・脱字等あったら、連絡ください m (ー) m

第2話 学校と俺と女難と…（前書き）

タイトルは…バカテスに似てますが…気にしないでください m
┐ m

第2話 学校と俺と女難と…

「おはよう。」

「おはよう。」

挨拶が飛び交う中、皆の視線は、ある二人に注目していた。

「…なあ…。」

「何だ？」

「離れろって、言ったよな？」

「ああ、そんな事言ってたっけ？」

「言った。…これかなり目立ってるよ…。どうしてくれるんだ!？」

「んゝ、こうするしかないな…。」

そう言って、ルナは俺の腕に胸を押し付けた。

「……!! 何するんだよ!？ 離れろ、アホ女!!」

「イヤだ!! ルイが他の女に盗られる。」

「は? 意味わかんねえし…。はっ!？ 落ち着け、いつもの俺に落ち着け…。Be cool: be cool。」

周りの男達――（先生も含め）俺を恨めしそうに見てきた。
女も女で「お姉様に近づくな！雄豚め！！」とか言ってる…。

ビクッ！！

背中から物凄い殺気という名の視線を感じた。

多分…この殺気は…

「おい！その生徒2名、離れなさい！！」やっぱり…

「別にいいじゃないか、問題ないだろう…。」

「あります！！ルイ君が嫌がってます！！…べ、別に羨ましいわけじゃないんだからね！」

「そうなのか…？ルイ…私のこと嫌いか…？」

と上目遣いで俺に見てくるが、無視する。

「そうか…」

シユンとすると…全校生徒共が人を殺せるような視線で見えてきた。

「なあ、何で俺、睨まれてるの？」

「知りません！二人共、早く離れなさい！！」

「わかった…って、言いたいけど…腕離してくれない？さっきより力が加わっているような気がするんだけど…。」

「やだ！離れるとこの女が私のルイを盗るもん！」

「いや、俺…ものじゃないし、はなれてくれない？そろそろチャイムなるし…。」

「イヤだ！離れるのはイヤだ！一秒たりとも、離れたら、私が死ぬ…。」

「意味わかんねえし…。早く走らねえと…遅刻するって…。」

ーキーン コーン カーン コーンー

ああ…。

第2話 学校と俺と女難と…（後書き）

またもや、駄文ですね…文才が欲しいです。

誤字・脱字等あったら、連絡ください m (((m

第3話 俺と色男と休み時間（前書き）

主人公の性格定まらない（――；）

第3話 俺と色男と休み時間

あの後、先生に説教されて、朝のHRに出席出来ず、遅刻扱いされた。

「次からは、こんな事がないようにって、言いたいけど…ほぼ毎日だもんね…。ルイ君、大丈夫?？」

「はい、大丈夫です。慣れませんが…。」

「そう…じゃあ、教室に戻ってもいいわよ。（はぁ…私もあんな風に大胆になれたらなあ…。）」

「はい、分かりました。これからは遅刻しないように行きます。」

「うん、わかったわ。それじゃあね。」

先生は去っていった。ん?その先生は誰かって?一応、紹介しとこう。彼女は、紅 朱里(くれない あかり)。生徒指導担当の先生で、風紀委員会の顧問だ。生徒に慕われているんだ。さて、早く教室に行くか…。

|・|・|・|・|・|・|・|・|・|

「すみません…遅れました。」

「さっさと、席に着け。1時間目始まるぞ。」

「分かりました。」そう言って、席に着く。

「よお、朝から痴話喧嘩で遅刻なんて…ついていないなあ…お前。」

ま、いつものことか。」

「いや…只のルナの我儘だ。気にすんな…。カイも相変わらず、凄いなあ。その恋文の量…。」

「ああ…。どうやって返事返すかな…。あまり傷つけないんだよね。」

ここがカイのいいところ何だよな。カイって誰かって？バカ言わせんなよ！せっかくだから、紹介するぜ。こいつは、紅海（くれないかい）。そうこいつは…アカリ先生の弟さんだ。容姿は、恋文の量を見れば分かる。どれくらいの量かって言う…：シャパンタワーが出来るくらいかな…。

「なあ、ルイ。もしもさあ、大切な人が目の前でいなくなった場合、どうする？もしくは、助けられるとしたら…。」

「はあ？何質問しているんだあ？カイ、何か変な物食べたか？保険室に逝くことをオススメするよ。」

「行くなって字、違うような…。例えばって話だよ。ほら、早く答えろ。1時間目始まる…。」

「自分の力を全力で使って助けるかな…。カイ…何かあったか？」

「いや、何も…。」

ーキーン コーン カーン コーナー

カイの様子がおかしかったが…スルーした。次の授業の準備を始め

た。

「助けるか…。あいつと同じことを言ってくれるな。…そろそろか
(ボソツ)。」

第3話 俺と色男と休み時間（後書き）

ノ 次の次辺りに登場人物設定でも書こうと思います（
、
▽
、
）

第4話 俺と後輩と後輩?と(前書き)

いつ、登場人物設定書こうかな…(ーー;))

第4話 俺と後輩と後輩？と

―昼休み―

そういえば、通っている高校教えていなかったな…。

ここ、聖（セイント）学園。そう、ここはルナの父親の光輝さんが建設した学園だ。ここに通う生徒は、大抵、どっかの社長の令嬢か御子息ぐらいだ…。幼稚園〜大学まである。お嬢様学校もあるし、勿論その逆もある。不良もいる。ま、それは、財閥系の息子とかだろう。おっと…説明が長すぎたな。いつもの場所に集合しないとパシられる。

「よ。お前ら、待ったか？」

「待ったぞ。」何故か胸を張るルナ。

「遅いですよ。」と少し怒るアカリ。

「俺も来た所。」と言うカイ。

「早く来すぎちゃいました…。」と言う真面目な男の娘のサクラ。

彼は、お嬢様学校に通っている。とあるアホ男の所為で

、今は女として、いる。歳は、俺より2歳下だ。

「ルイ先輩、待ちましたよ。」と言う如何にも後輩って、感じがするリン。ちなみに、彼女は…一応…大学生だ…。つまり、先輩だ。何故、俺が先輩って言われるのは…この学園で最強と言われるルナは、

「私と闘いたいなら、ルイに勝ってからにしろ。」

と言ったらしい…めんどくさい事を言いやがって…。

で、俺に向かって、

「私と闘え!!」

って言ってきたので、断った。普通は、ここで断るだろ？何所かの戦闘狂じゃねえし…。断ったら、断ったで…殴りかかるし、逆に殴ってもいいよね？被害者は此方だもん。正当防衛で合気道使ったら…(ry)…で、俺が勝って、ああ…勿論正当防衛でね。

「師匠って、言わせてください!!」

って、言われたけど…(ry)…最終的には、先輩になった。

「我、ルイ、所望。」

と言う某ゲームの武将口調の奈瑞菜。

彼女は、俺が山籠りしてた時に、熊に襲われそうになったのを助けた。その後、家あるかと聞くと…

「我、家、消失。」

と言ったので、ルナに相談した結果、寮に住まわせた。苗字がなかったので…俺の苗字を付けてあげた。

そのきっかけで俺に懐いてきた…鬱陶しいぐらいに…。

「ハイハイー（棒読み）。」

「所望。」

と言って、俺に抱きついて来た…。

はぁー…またかよ…。

「「!?!」」

「相変わらずですね…。」

「修羅場になるなぁ〜。」

「はぁー…行こうぜ、屋上に。」

、
と言って、そこで食べた。

「そういえば、今日の夜って、聖カンパニー創設記念50周年の祭りやるらしいよ。」

「そうなのか…んじゃ、皆で行こうぜ！家族同伴でいいからさ〜。」
とサクラに視線を送る。

「ありがとうございます！母を連れて行きますね…今日も父親が遅いので、行けます。」

「ルイ、頼みあるんだが…変装なしで来て欲しい（ぼそっ）。」

「そうだな…サクラリンとナズナは知らねえと思うから、それで行

くか…。」

「「「?」?
「」
「」

チャイムがなったので、解散した。

第4話 俺と後輩と後輩?と(後書き)

駄文ですね…キャラの性格掴めネエ…(――;)

登場人物設定

月詠ルナ（つくよみ るな）

年齢…18 ?性別…女

趣味…家事、スポーツ全般、勉強、ルイを観察すること

特技…砲丸投げを5km投げる事

容姿…金髪、碧眼、蒼眼（日本人とアメリカ人のハーフ、母親似）

説明…ルイの幼馴染。美人で文武両道。聖学園高等部生徒会長。学園アイドル。聖カンパニー社長の娘。二つ名「完璧人間」

紅 朱里（くれない あかり）

年齢…22 性別…女

趣味…家事、テニス、バスケ

特技…3km離れているゴールに入れること

容姿…紅髪、紅眼

説明…ルイの幼馴染。美人で厳しい。聖学園高等部生徒指導員。女子生徒達の憧れ。紅（クリムゾン）社の娘。二つ名「歩く法律」

紅 海（くれない かい）

年齢…18 性別…男

趣味…スポーツ全般、株、賭け事

特技…宝くじが必ず当たる（1万円以上）

カイ曰く、

「確率を計算すればどうってこと無い。」

容姿…蒼髪、蒼眼

説明…ルイの幼馴染。イケメンでチャライ。聖学園高等部会計。学園の人気者（男女関係なく）。紅社の息子。二つ名「金の亡者」

陰道 凜（いんどう りん）

年齢…20 性別…女

趣味…武術、鍛錬、菓子作り

特技…鉄板を正拳突きで割る

容姿…黒髪、翠眼

説明…ルイの先輩。何故かルイを先輩と言う。聖学園大学部武術科風紀指導員 副会長。武道家のアイドル。有名な陽陰道場師範の娘。二つ名「鉄壁処女（アイアン・メイデン）」

神風 奈瑞菜（かみかぜ なずな）

年齢…17 性別…女

趣味…忍術、サバイバル、山籠り、裁縫

特技…松茸を掘り当てる事が出来る

容姿…紫がかかった黒髪、紫眼

説明…ルイの義妹。5歳の頃、親が借金で夜逃げし、家を消失。聖学園の裏山にツリーハウスを作り、過ごしていたが…熊に襲われそうになった所を助けた。ルイが事情を知り、義妹として招き入れる。それを聞いたルナが（同棲するのを阻止するため）寮にいた方がいいのでは？と促し、ナズナが渋々了承した。現在寮に住んでいる。ルイと2人っきりの時だけ、口数は少ないが

…普通喋る。皆といると、某武将の口調になる。聖学園高等部生徒会補佐。癒し系アイドル。二つ名「紫紺の神子」

登場人物設定（後書き）

補足…二つ名はある特定の条件で貰える。下記の通り

- ・何かしらの成績をとる。
- ・何かを極める。
- ・何かで有名になる。

カイで例えると宝くじ1万回当たったとか。

第5話 俺と祭りと正体と

「聖カンパニー創設50周年記念祭」

「カイside」

「すみません…待ちましたか??」

と言って、隣に美人の女性とお揃いの着物を着たサクラがいた。

「いや、大丈夫だ。皆もちょうど来た所さ…ルイ以外。」
とカイが言った。

「またですか…。遅刻癖直して欲しいですね。あ、紹介しますね…
此方の女性は、母です。可愛いでしょ??」

「サクラの母の愛です。一応、20歳後半です。好きな方で呼んで
くださいね。」

ぺこりと頭を下げ、此方も下げた。

「じゃあ、愛さんって呼びます。少し待っててください。そろそろ
来ますから…。」

周りから女性の黄色い歓声が聞こえた。「キャーキャー、かっこい
い。」「はうわぁ／＼／」:etcetc。

「ほら来た。」

俺らの目の前に止まって…

「待たせたな。」

―ルイside―

「待たせたな。」

やっぱり、慣れないなあ…この格好…。

「どちら様ですか？」 「誰？」 「誰ですか？？」

やはり分からんか…。

早く説明しろ！！カイ！！

と視線を送った。

「俺達が知っている奴だぞ…これが分かんなかったら、奢りね。」

「―「！？」」」

サクラ、リン、ナズナが焦りだした。

「ルナ、落ち着け！！ここで暴露たら、ルナが奢りだぞ！！」

「ブツブツ…ブツブツ…成分が足りない…ブツブツ…抱き締めたい…ブツブツ…は！！私は何を！！？」

何かルナが危ない気がする…違う意味で…

「誰だろう…こんな人いたっけ？」

「我、記憶…無。」

「私の知っている人で、カッコいい方は、カイさんぐらいしか思いつきません…。違った意味で…ブツブツ…。」

サクラ達が悩んでいる…

最後の方、聞こえなかったな…。

はぁー…何故分らないんだ?? 声で分かるだろう…。ああ、画面の皆様祭りに行くメンツをご紹介しましょう。俺、カイ、ルナ、アカリ、サクラ、サクラ母、リン、ナズナの8人だ。まあ、大人数だけど…気にしないで…。てか、まだ分からないのかよ…。

「3、2、1。はい、終了。お前ら奢りね。」

「「「ガーン（◇；）」」」
orz状態になっていた…。

「正解を教えてくださいよ。」
と皆を代表して、リンが言った。

「んじゃ、本人から答えてもらおう。」

カイが答えろよ!! という視線をおくつが…スルーされた。

「ち、めんどくさいなあ。俺は神風ルイだ。」
と言った瞬間、

サクラ達が人を殺せそうな鋭い眼で

「貴方が先輩の名を名乗るなあ!!」

「我、怒。先輩、侮辱。貴様、殺。」

「ルイ先輩を侮辱しましたね…社会的に抹殺しましょう。」

…え？変装した俺って、こんなに尊敬されてたの？嬉しいけど…カ
イ達助けてえ〜。

あーーーーー…。

第5話 俺と祭りと正体と（後書き）

感想等お願いします m () m

第6話 俺と義妹と迷子と（前書き）

やっとう更新へへ；

第6話 俺と義妹と迷子と

ールイsideー

えっと、あらすじ：前回、変装しないで来たけど、俺だという事を信じてもらえず、殺られかけそうになったが：カイ達が止めに入り、なんとか信じてもらえました。サクラ達は驚いていたので、理由を話した所：納得してくれました。あ、サクラ母が

「私、空気（泣）。」

とか、言ってたような：気のせいですね。では、祭りです。

ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー

「これから、何する??」

「射的!!」

「金魚すくい!!」

「焼き鳥!!」

「賭け事!!」

「ルイ、所望!!」

「踊り!!」

「おまかせで!!」

上からルナ、アカリ、リン、カイ、ナズナ、愛さん、サクラの順だ。

「んじゃ、てきとーに廻るか…。」

「はい。」

とそれぞれ返事した。

ー屋台通りー

「安いよー安いよー。お、その美女美男組、このカキ氷はどうか
な?美味しいよー。」

「んじゃ、買います。8人分をお願いします。ついでに、焼き鳥も16本ください。」

「はいよ。」

そう言っ、おじさんが用意し始めた。

「はい、お待ちどうさま。お代は、800円ね。」

「そんなに安くして、大丈夫ですか??」

「いや、美女拝めたから、サービしとくよ。」

「ありがとうございます。はい、800円。」

「毎度あり!お、そうだ:兄ちゃん達に花火が見える最高の場所を教えてあげるよ。」

「ありがとうございます。」

「この奥に寺あるだろ?そこの裏の崖に夜景が見れるところがあって、そこで花火が上がるのさ。夜景と花火:くうくいい2ショットだろ?俺は、商売始めるから:じゃっ!」
おじさんが去っていった:

「花火上がるまで:時間あるし、廻るか:。」

「御意。」

とナズナが返事した。

ん？

「あれ？カイ達は？？」

「皆、食料、所持。散開。話、視聴。場所、理解。」

「えっと…ナズナ以外は、それぞれペア組んで、焼き鳥とカキ氷を持って散ったと…。で、話聞いてたから、問題無いと。で、ナズナは何故残ったんだ？」

「ルイ、一緒。」

「ありがとな。」

と言って、俺はナズナのあたまを撫でた。

ナズナは目を細めて気持ちよさそうにしていた。

はあ…先が思いやられるなあ…。

第6話 俺と義妹と迷子と（後書き）

駄文すみません

第7話 俺と義妹の店回り（前書き）

遅くなつてすみません m () m

第7話 俺と義妹の店回り

あらずじ

前回、カイ達がいなくなりました：以上。追伸、ナズナはいい娘です。

ルイside

「ナズナ、これからどうする？」

「・・・ルイと一緒になら・・・いいよ。」

「何で皆といると普通に喋らないの？」

「・・・何となく。」

何故か俺といると、口数は少ないが：普通に喋る。2人つきりでな。皆といると、無言か“あの”口調になる。

「んじゃ、射的行こうか。欲しいものあったら：とってやる。」

「ん・・・。（ルイが欲しい／／／）」

「何か言ったか？」

「いや・・・何も。」

俺とナズナは、射的場に行った。

射的場

射的の所に、行くと、人集りが出来ていた。「おおー。」とか聞こえるが：まさか・・・な。

「勘弁してください。・・・此方の団体様旅行券無期限をあげますので：」

「む・・・、しょうがないな。この商品とこの商品以外は返す。」

また楽しませて貰うぞ。」

そう言うと、店主が涙目だった。店主ドンマイ…次があるさ。てか、この人集りはルナのせいだったのか……。

「おい、ルナ、むぐっ!？」

ナズナが口を塞いできた。

「何するんだよ!ナズナ!」

「時間までに……集合する……から……また集まっても……すぐ逸れる……。」

「んゝ。わかった。んじゃ、行くぞ。」

「ん……。手繋ごう?」

「わかった、逸れないようにな?」

手繋いだら、何故か赤くなってた。ナズナが。

「どうした?風邪か?」

「違う……。バカ……。鈍感。」

「??」

ちなみに主人公は鈍感である。

「彼処のりんご飴食べようぜ。」

「ん……。。」

手を繋いだまま行った。

てか、煩いな周り。アレだ…かなり色々な視線が来る。ナズナは気にしてないが…。妬み、嫉妬、殺気、怒気……。etc。俺はそういう視線にはかなり敏感なんだ。何故だろう?ま、いっか。

懐の本が光ったような気がした・
・
・。

第7話 俺と義妹の店回り（後書き）

駄文ですみません m () m

次回、ご期待しないでください d () ()

第8話 俺と花火と告白と…忍び寄る謎の影（前書き）

遅れてすみません…（。――。）

主は忙しいのです…勉強に（、ん、）

第8話 俺と花火と告白と…忍び寄る謎の影

ルイ side

―寺の裏―

「おい、皆集まったか？」

「集まったぞ！」

その後、俺は…色々と回って…時間になり、集合場所に来ていた。

「そろそろ、始まるぞ」

と言った瞬間に…花火の音になった…

ヒュードン！パラパラ…

「おお！！」

皆から感嘆の声があがった。

「綺麗だねえ…。」

「そうだねえ。」

「今年は…大きいなあ…。何かあるのか？」

「ないと思うけど…。」

「また祭りあったら、ここに皆で来ようか…。」

「うん」

とそれぞれ返事した。

次第に花火が終わり…解散した。

―帰り道―

「いやあ〜楽しかったなあ。」

「ああ、明日も学校だな…。」

と俺とルナは2人で帰ってた。

「学校か…めんどくさいなあ…。ま、後少しの辛抱で休みだからい
つか。」

「そうだな…ところで、ルイ…。その…大事な話があるんだが…。
」

ん？ルナがそわそわしている…ルナの大事な話って面倒ごとか？前
なんて…「不良を壊滅してくるぞ。」とか「生徒会入れ。」とか…
e t c e t c .

「ちゃんと聞いてくれ。ルイは私のことをどう思ってるか知らない
が…私は、ルイのことがす…す…。」

ん？何だろう…こんな夜道で何を言おうとしてるんだ？まさか…！
？不審者を倒そうとかか？？でも、さっきから、す？すって何だ？
スカイダイビングやらないかか？…ありえそうでありえる…ん〜。

「す、好きなんだ！私はお前としか合わない！私の心は…ルイでい
っぱいなんだ！…だから…その…結婚前提で付き合ってくれないか
？」

「へ？え…？これって告白だったの？」

「…（こく）。」と頷いた。

「…。いきなり好きとか、どうとか言われても、まだ俺…恋愛とかわからんし…、まだ好きって気持ちもわからんけど…そんな俺でいいのか？？」

「うん…。」

「えっと…、まだ付き合えないけど…もしも、俺がルナのこと好きになったら、その時は返事する…それでいいか？？」

「ああ、ルイの心を私の事でいっぱいにする！明日から宜しくな！」

「ああ…宜しく！」

ああ…大変なことになったな…。

運命の歯車が動き出した…

「ケヒヒヒ、いいスクープGETなんだな…。」

「「！！」」

明日が来ないと知らずに…。

第8話 俺と花火と告白と…忍び寄る謎の影（後書き）

駄文ですが…気にせずにご覧ください（ゝ旦）

よろしくです（。ー。ー。）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4300u/>

SILVER BULLET～とある少年の異世界記～

2011年11月9日17時03分発行